

教科目名 プロジェクト演習Ⅳ (Projected Practice Ⅳ)

専攻名・学年 : 全専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 ◎科目)

単位数など : 必修 1 単位 (前期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 高橋徹, 一宮一夫, 相本正吾

授業の概要				
特別研究の遂行には、論文作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力などが必須である。この教科では縮約練習などにより、論文作成の際に役立つ論理的な思考法や文章構成法を習得する。更に、実践的なディベート方式の授業により、自らの力で考え、表現できる能力を養成する。				
達成目標と評価方法		大分高専目標 (A1) (C1), JABEE 目標 (a) (f)		
(1) 縮約練習を通し、日本語による文章構成法を習得する。(小テスト, 定期試験)				
(2) 漢字・送り仮名など、日本語の基本について再確認する。(小テスト)				
(3) 文章のパラグラフ化を理解し、論文を論理的に構成できる。(定期試験)				
(4) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できる。(ディベート, 定期試験)				
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検	
1	[日本語表現] 「日本語練習帳」の解説、縮約練習の説明	教科書「日本語練習帳」の内容を理解する。特に、文章の構成力を身につける上で役立つ「縮約」の練習法について学ぶ。	【理解の度合い】	
2 ～ 7	縮約練習、解説	新聞の社説など、与えられた文章について縮約を行う。縮約した文章は教員によって評価される。毎回、100点満点中80点以上を取ることが望ましい。 2～7回まで授業の最初に漢字などの小テストを行う。		
8	小テスト	縮約、漢字書き取りなどについて小テストを行う。		
9	「理科系の作文技術」の解説 パラグラフ化の練習	教科書「理科系の作文技術」の内容に触れる。特に、文章のパラグラフ化について学習する。		
10 ～ 11	[ディベート] 解説、グループ分け、 資料収集、論点整理、作戦会議。 (賛成・反対の決定はディベート直前に行うのでどちらの側でもディベートできるように準備する。)	与えられた複数のテーマについてディベートを行う。 学生は2～3名ずつの班に分かれ、それぞれのテーマについて2つの班が賛成派・反対派の立場となりディベートを行う。ディベートの判定は、教員およびディベートに参加していない班の学生によって行われる。		
12 ～ 14	ディベート	9, 10回は、縮約練習を課題とする。		
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説			【試験の点数】 点
履修上の注意	縮約練習をする上で必要な国語辞典などを用意すること			【総合達成度】
教科書	大野 晋, 「日本語練習帳」, 岩波書店. 木下 是雄, 「理科系の作文技術」, 中央公論新社. ディベート用プリント.			
参考図書	松本茂, 「頭を鍛えるディベート入門」, 講談社.			
自学上の注意	教科書の対応箇所を読んでおくこと. 日常において理系の作文を行う際には、パラグラフを意識して作文する習慣をつける. 文章を読む場合には、事実か意見かを意識しながら読む. 縮約の課題は時間を切って行うこと.			
関連科目	法学概説, 経済学概説, 哲学概説, 歴史学概説, 日本語表現法、地域日本文学, 卒業研究, 特別研究 (専攻科)			
総合評価	授業中の小テスト・縮約練習結果・取り組み状況 (約70%) と定期試験 (約30%) により総合評価する. 再試験は特別の事情がある場合にのみ行う。			【総合評価】 点